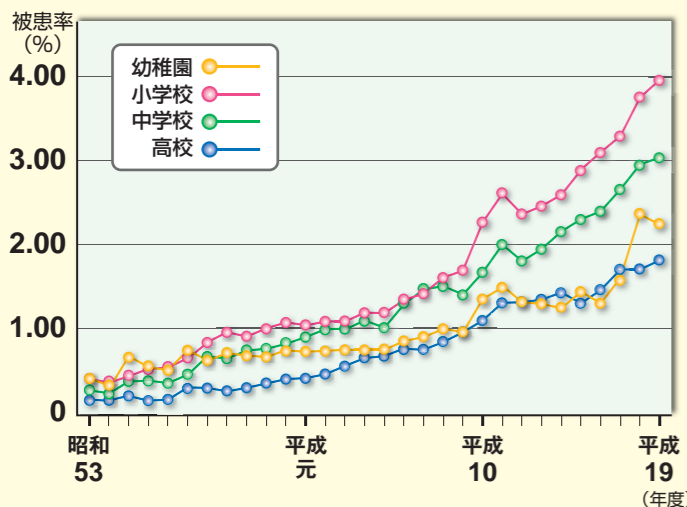




知っていますか？ 子どもたちの病気・不健康が増加しています

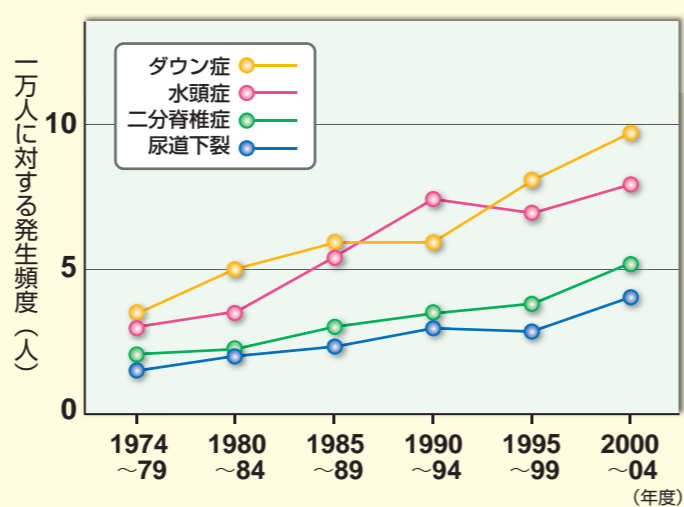
- 子どもがとりわけ化学物質などの環境汚染に傷つきやすいものであるということは、まぎれもない事実です。
- さらに今、子どもたちの間で心身の異常が年々増加していることが報告されています。

わが国における児童等のぜん息被患率の推移



出典: 学校保健統計(文部科学省)

わが国における先天異常発生頻度の推移



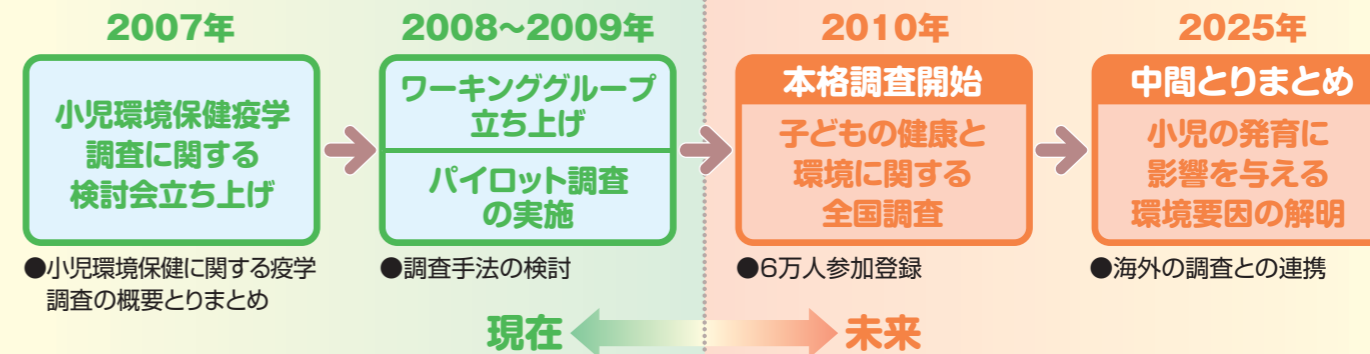
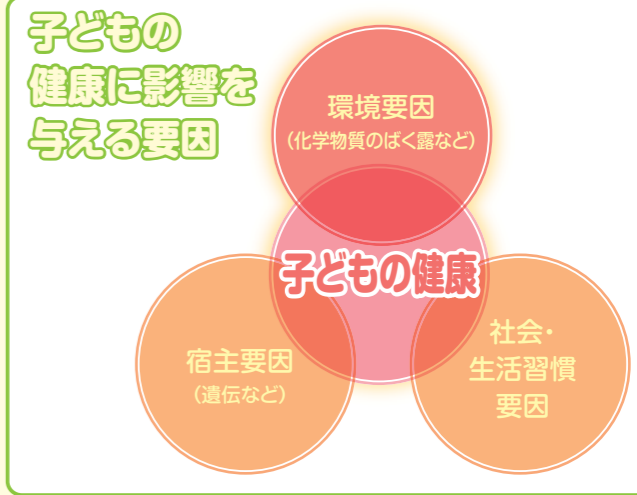
出典: 国際先天異常監視機構 (ICBDSR)

上記以外に報告されていること

- 免疫系疾患 (アレルギー、アトピーなど) の増加
- 代謝・内分泌系異常 (小児肥満、小児糖尿病など) の増加
- 生殖異常 (不妊、流産、男児の出生率の低下など) の増加
- 神経系異常 (自閉症、キレやすい子、LD(学習困難)など) の増加

大規模な全国調査の実施を

- 環境に対し脆弱である子どもたちが健全に発育できる社会をつくるためには、化学物質などの環境要因が子どもたちの健康に与える影響を明らかにし、その結果を広く社会にアピールし、適切な取り組みを進めることが重要です。
- 特に、子どもたちの間で増加している心身の異常の原因を追究するためには、今までにない大規模な疫学調査が必要です。
- 疫学者、毒性学者や臨床医をはじめとする幅広い分野の専門家が力を合わせ、わが国をあげての全国調査に取り組みます。



世界では、今...

- 1997年、先進8カ国の参加による子どもの環境保健に関する環境大臣会合が開催され、子どもの環境保健を最優先事項とする「マイアミ宣言」が採択されました。
- これを受けてアメリカでは、当時のクリントン大統領により「環境保健リスクと安全リスクに対する小児の保護」が発令され、欧州では、健康影響や健康ハザードから子どもを守るために必要な研究や施策を優先事項とすることが明確化されました。
- 現在、アメリカ、ノルウェー、デンマーク等では、小児と環境をテーマとした大規模な国家プロジェクトが進められています。

小児と環境に着目した主要な疫学調査例

